



村はひとつ 学校はひとつ 願いはひとつ

地域コミュニティを核とした
天栄だからできる少人数教育

教育委員会だより No.128

愛村心（＝尊心）を育む 天栄村！



発行：天栄村教育委員会

教育充実に向けた「4本柱」成果報告

今年度天栄村では、児童生徒の「豊かなこころ」の育成、「確かな学力」の向上、「健やかな体」の育成を実現するために、「天栄型コミュニティ・スクール」「愛村心を育むふるさと教育」「英語の村てんえい」「つなぐ教育」を、それらを支える「4本柱」として、諸事業を行ってきました。一年間の成果を報告します。

天栄型コミュニティ・スクール



学校運営協議会委員の皆様による、全体会（2回・書面開催）と小・中学校訪問（2回）を行いました。委員の皆様方には、学校施設・設備に関することや歯科衛生の取組、学校図書の活用、GIGAスクール推進等について貴重なご意見をたくさんいただきました。次年度からのよりよい学校運営のために役立てまいります。また、各小・中学校の、令和4年度の教育課程も承認していただきました。

愛村心を育むふるさと教育

天栄村の特産品を使用した商品を開発したり、地域の方を招いてお仕事についてのお話を伺ったり、天栄村の「ひと・もの・こと」を題材にしたふるさと教育が各小・中学校で実践されました。また、「子ども映画学校 in 天栄村」を開催し、子どもたちが、台本作りから演技・撮影、宣伝、配給などの映画制作の一連の流れを体験する機会を設けました。子どもたちが作り上げた映画は、どれも天栄村のよさを伝え、守っていきたいというメッセージがこもった素晴らしい作品でした。

英語の村てんえい

オンライン英会話、ブリティッシュヒルズでの異文化体験事業、県指定の「小中英語パートナーシップ事業」の推進、ALTの各校・園への計画的配置を通して、児童生徒の英語力向上を目指しました。各校において、外国語の授業改善もなされ、児童生徒の英語活用への意欲が高まりました。今年度からスタートした、小学校高学年対象の「英検チャレンジ」には12名が参加し、英検3級合格に2名が輝きました。中学校3年生の英検3級取得率は47.5%で、国が目標としている50%に近い水準となっています。

つなぐ教育

小学校、中学校の教員が、校種をこえて授業（外国語活動や外国語科）を参観する機会を設けました。他校種の子どもたちの実態や指導方法を見聞し、小・中学校連携の必要性、重要性をあらためて認識することができました。また、幼小連携研修会も行い、小学校の教員が保育の様子を参観しました。協議会では、幼稚園と小学校の間で、「聞くこと」「表現すること」に重点を置いて、子どもたちを育てていくことが確認されました。





生涯学習事業

村民一人一人が自己の能力を高め、生きがいを持って豊かで充実した人生を送れるよう、誰もがいつでも自由に学習機会を選択できる環境を整え、「愛村心を育むふるさと教育」を目標に取り組んでいます。こうした村民の主体的な学習活動を支援し、習得した知識を地域へ還元できる人づくりを推進していきます。

○北京冬季パラリンピック藤原哲選手大健闘！！

このたび村内大山地区在住の藤原哲さん（41歳）が、北京冬季パラリンピックに日本選手団の一員として出場しました。

藤原さんは秋田県横手市出身で平成8年、高校入学直後にスキーパークの合宿中、転倒し、脊椎を損傷しました。32歳のとき、チェアスキーを始め、平成28年に天栄村に移住し、会津地方のスキー場で技術の向上に励んできました。今回、日本選手団（アルペンスキー男子座席）の代表入りを果たしました。

3月6日からの大会期間中、難度のあるコースにもかかわらず果敢に挑み、大回転で23位、回転、スーパー複合、スーパー大回転は転倒等で惜しくも途中棄権しました。藤原さんは今回の経験を次へ（2026年、イタリアで開催のミラノ・コルティナダンペツツオパラリンピック大会）の弾みにしていきたいと決意を新たにしていました。



・久保教育長より激励金を贈られる藤原選手



・滑走中の藤原選手の雄姿